



年 組 名前

道新 ワークシート

温暖化サケの成長阻害

釧路 北大名誉教授が講演会

サケの生態に詳しい北大の帰山雅秀名誉教授が、釧路公立大で「地球温暖化がサケに及ぼす影響」と題して講演した。近年続くサケの不漁に温暖化がどう影響しているか解説し、学生や市民が耳を傾けた。

13日に開催。サケの水揚げは、2000年代から減少傾向になっており、気象庁の海水温のデータによると、北太平洋の平均海面水温がこの100年で約1度



サケの不漁と温暖化の影響について語る北大の帰山雅秀名誉教授（左）

上昇していると説明。「温暖化で、6月にサケの幼魚が育つ北海道沿岸や三陸沿岸で、最適水温(8〜12度)の日数が減っている」とした。また、年輪のようになっているサケのうろこを分析すると、近年は幼魚の頃のうろこが小さくなっており、「日本沿岸で十分に育たないまま海水温が上昇すること、追い出されるようにオホーツク海に旅立っている」と解説。さらに、温暖化で最適水温がロシア沿岸に広がったことで、オホーツク海でカラフトマスなど他の魚種との競争が激しくなり、「サケは栄養価の低いエサを食べざる得ない状況だ」と強調した。

サケを次世代に残すために、帰山名誉教授は「排出ガスを減らして、地球温暖化をストップする取り組みが大事だ」と訴えた。

(上田惟嵩)

2024年2月19日(月) 朝刊 釧路・根室版 13ページ(記事は再編集しています)

- ① サケの水揚げは、いつごろから減少し始め、その原因として考えられることはどんなことでしょうか。
- ② サケを次世代に残すために「排出ガスを減らして」とありますが、それ以外に自分たちにできることを考えましょう。